

基礎・基本の定着とコミュニケーション能力を高めるための実践

【越谷市教育委員会】

- 1 学校・学年・教科 中学校・全学年・英語
- 2 ねらい
コミュニケーション能力の基礎を養うために語順や語彙、文法を確実に定着させる。
- 3 取組内容

① 毎回、授業の最初に帯時間の言語活動として次のような活動を行っている。

・フォニックス（1年生）

綴りと音の関係をリズムに合わせて練習することで、発音、イントネーションはもとより、語彙を習得する一助としている。

・ビンゴ（2年生）

提示された既習、未習の単語の中からマスに自由に単語を書き込ませる。教師が発音した単語をリピートしながらチェックを入れ、縦、横が揃えば「ビンゴ」とする。この活動は、英語が比較的苦手な生徒も積極的に参加できる。そして、英語への意欲を高めることで、家庭学習の動機付けにもなっている。

・インプット（2, 3年生）

英文と日本語を並べた一覧表シートで、日本語を見ながら英文を言えるよう練習させる。ペア練習ができるようにして会話文にすることを目指し、練習後、ペア同士で発音等チェックする。文の量は生徒の実態に応じて加減していく。ちなみに、3年生では12文程度で、既習、未習の文を織り交ぜてスパイラルの学習としている。英語が苦手な生徒には、英文が読めたら可とする場合もある。1枚のシートを6回（6回の授業で終了）チェックする。途中の3回目と最後の6回目のチェックの後で、英文中に（ ）の空欄を設けた英文完成のワークシートに取り組ませることによりさらに基本文の定着を図る。

② 昨年度は2学期以降、English Journal と称したノート1冊を用意させ、表現指導を行っている。

Writing に対して苦手意識を持つ生徒が多いために、ALT の発案を参考として、全学年で実施している。各学年とも3週間に1回の割合でテーマを与え10文以上の英文を自由に書かせる。

テーマを与えてから1週間後の授業でノートを集め、ALT がチェックして10点満点で評価した。ほとんどの生徒がノートを提出し、合計で7回程度実施した。

③毎年2学期に全校スペリングコンテストを行っている。

学年ごとに出題数は異なるが、前項一斉に取り組むことにより、やる気を引き出す雰囲気を作り出すことができる。

クラス平均点を競わせることにより励まし合い、前向きに学習に取り組む雰囲気をつくることができ、基礎学力の定着を図ることができる。

また、各クラスの成果を掲示し個々の努力を評価した。

	Class 1	Class 2	Class 3	Class 4	All Classes
平均点	96.3点 1位	88.2点 3位	94.2点 2位	86.9点 4位	91.4%
100点満点	10人	10人	10人	10人	74人
Marvelous!!	2人	2人	2人	2人	17人
合格者 (90~99)	4人	9人	8人	8人	29人
Excellent!!	1人	2人	3人	4人	10人
あと一歩 (80~89)	1人	2人	3人	4人	10人
Close!!	1人	2人	3人	4人	10人

スペリングコンテストの結果の掲示物

4 成果と今後の課題

2年生で実施される埼玉県学習状況調査において毎年、県平均を超えている。特に、表現力においては平均を大きく超えており表現しようとする意欲も高い。これは Writing 指導の成果であると言える。

今後の課題は長文の読解力とある程度まとまった文の聴き取る力を高めることで、週3時間の授業ではなかなか取り組めなかったが、週4時間になる来年度以降は教科書以外のまとまった文の読解や聞き取りの演習を授業にどう組み込むかが課題となる。教科部会で十分話し合い、本校としての取組を、英語科教員共通理解のもと実践に励みたい。